

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400354		
法人名	医療法人社団桑崎会		
事業所名	グループホームエルーセラ		
所在地	栃木県佐野市免鳥町496 (電話) 0283-20-4501		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月31日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日、平成15年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算6.4人	
	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算6.2人	
	8 人	常勤5人, 非常勤4人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代(適宜) 1,500円</li> <li>・日用品費 158円/1日</li> <li>・公益費 473円/1日</li> <li>・光熱費 368円/1日</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	315 円	昼食	420 円
	夕食	420 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年6月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	11 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医師会病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>佐野市郊外の田園地帯の中に広い敷地を有する医療法人を母体としたグループホームで、市内で一番最初に開設された3ユニットのグループホームである。敷地が広く、ホーム内の庭にはテーブルやベンチが置かれ、入居者が思い思いの場所で過ごしている。居室には生活に馴染んだ小物などが自由に持ち込まれ、家庭的な安心できる生活空間づくりがなされている。職員同士の連携も良く取られている。3ユニットの中心にある広い事務棟を利用して、職員の勉強会や運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点については、運営推進会議の議題にあげられて検討され、改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者や各ユニットの長において話し合いが行われ、最終的に管理者がまとめた。職員には提示されたただけであった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には自治会長、地域包括支援センター、入居者及び家族の代表者が参画しており、2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームの課題をあげ、課題解決を図るための討議がなされている。市とは開設以来、連携が図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に声かけをし、入居者の状況を伝えたり要望を伺っている。ホームだより等は作成していない。重要事項説明書に苦情窓口の明記はあるが、市・国保連等の連絡先の明記はない。意見箱は設置されているが、現在までに意見・苦情が寄せられたことはない。運営推進会議には家族の代表者1名が参画しており、家族会は組織されていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
	<p>自治会に加入しており、運営推進会議に自治会長に参画していただいている。自治会活動にも協力し、地域の祭りや敬老会などに積極的に参加している。現在、近隣の地域の方々との日常的な交流は少ないが、今後、ホームの行事の際に参加の呼びかけをして交流が図られるようにしていく予定である。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を事業所理念としていたが、新たに「誠意をもって接する、個別ケアを重視する、日々おだやかに過ごせるよう支援する」と誰でも分かりやすい表現に直して事業所理念とした。	○	今後更に地域生活に視点を置いた理念を加える検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日々のミーティングや申し送りの際に理念について確認しあい、理念の共有が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の祭りや敬老会の行事にも積極的に参加している。また地元の短大生の実習も受け入れている。	○	近隣の地域住民にホームについて理解していただくためにも、ホームの行事の際などに積極的に地域住民に呼びかけをして交流を図るなどの取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は以前に実施済みであり、改善点については推進会議で検討をして見直す努力をしている。また、今回の自己評価については、各ユニット長が意見を出し合い、管理者が集約した。外部評価の実施については職員に知らされている。	○	外部評価の結果の改善点の見直しは評価できるが、自己評価については、職員全体で取り組むことで職員の考えを表現できる機会であり、また事業所としてのあるべき方向性なども明らかになるため、職員との話し合いを持ちながら実践につなげる取り組みをしていくことに期待したい。

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自治会長、地域包括支援センター、入居者家族、入居者が参画している。前回の要改善点の見直しなど、委員から意見を聞き、見直しが図られている。	○	地域の理解を深めたり協力を得る意味でも、会議のメンバーとして地域の民生委員や学校、消防等に積極的に参加していただけるように働きかけることなどにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは開設以来、連携が図られ、担当者からアドバイスを受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には声をかけ、入居者の状況を伝えたり、要望を伺っている。健康状況の急変時には電話で連絡をしている。預かり金の管理はしていない。	○	ホームの考え方を伝えたり、新しい職員を紹介したりするためのホームだよりの作成などの検討を期待したい。また、プライバシーに配慮しながら、外出や行事などの様子を写真などで記録してアルバムにし、入居者や家族に見ていただくような機会づくりなどにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情の窓口の明記はあるが、市、国保連等の連絡先の明記はない。意見箱は設置されているが、現在までに意見・苦情が寄せられたことはない。運営推進会議には家族の代表としてユニットごとに1名ずつ参画している。家族会は組織されていない。	○	重要事項説明書に相談・苦情の責任者や市及び国保連等の連絡先の明示をすることを期待したい。また、家族等に積極的に運営推進会議に参画いただけるような工夫をしたり、家族会の組織化の可能性を探るなど、意見を出していただきやすい仕組みづくりの検討も期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事異動はなく職員の交代は退職によるもののみであり、入居者へのダメージがないよう配慮している。また、職員が変わったときは面会時に家族との信頼関係が築けるよう努めている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的勉強会が開かれ、職員は積極的に参加している。外部研修についても職員が交代で参加し、研修報告書をもとに他の職員に伝達し、職員間での話し合いが持たれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県の事業者の組織に加入しており、サービスの質の向上を図るために研修などに積極的に参加をして情報交換を行っている。	○	市内でも最初に設立されたグループホームであり、市内の事業者の相互の連携を深めたり、勉強会等を通して更なる質の向上を図っていくために連絡会などの組織化の検討なども期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、分かりやすく説明を行い、適宜相談のりながら本人が安心して納得して利用できるように本人の意思を尊重して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側・される側という意識は持たず、職員と入居者がお互いに支えあう関係をつくることを心がけている。入居者から学ぶことが数多くあり、「人生の先輩である」という考え方が職員間で共有されている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者とのかかわりの中で声をかけ、入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な入居者には家族の協力を得て意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なアセスメントを行いながら、本人・家族と相談して意見・要望を踏まえて介護計画を作成し、説明して同意を得ている。また、毎日の申し送り時に職員の気づきや提案を話し合い、介護計画実施期間終了前に会議を開き、それらの情報を介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を目安にしており、状態の変化時には本人、家族、医師等と話し合い、見直しの検討を行い、適宜見直しが行われ、家族の同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が医療法人であり、事業所も医療連携体制加算を受け、医療処置を受けながら生活の継続が支援されている。また、入居者の重度化や終末期の対応についても検討している。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診や通院の際には必ず職員が同行し、必要時に家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対応していないが、対応の必要性を理解しており、事業所内で重度化した場合や終末期のあり方について管理者・職員で話し合いを定期的に行い、検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で統一を図りながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。訪問時には生け花をしたり、庭の椅子に座って談笑したりと入居者一人ひとりが思い思いに過ごされていた。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら、法人の管理栄養士が献立を作成している。入居者の希望により、月1回バイキング、月2回の寿司の日が決められている。職員も入居者と一緒に同じものを食べ、会話をしながら必要に応じて支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は午前中であるが、入居者の希望により入浴の支援をしている。入浴は、職員が1対1で対応できる機会、身体状況の確認や対話を通してスキミングを図る機会ととらえ、支援が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の手入れ、洗濯物たたみ、食事の後片付け、園内庭の散歩や近隣への買い物など、入居者と相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の敷地が広く、日中は自由に庭に出ることができ、その際は職員がさりげなく見守っている。外出の際には入居者の希望により外食なども対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけられていない。広い敷地内は自由に散策できる。帰宅願望のある方も敷地内を職員と一緒に散策するうちに落ち着きを取り戻すということもある。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により入居者も参加しての避難訓練を年2回実施し、訓練記録も作成・保管している。地域の協力体制づくりについては特に行っていない。	○	自治会の協力要請や運営推進会議を通して協力を呼びかけるなど地域での協力体制づくりをすすめていくことに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、摂取した食事の量や質について食事記録に記録している。水分の摂取については記録されていないが、十分に摂取できるよう配慮されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの天井に太い梁がわたり、広い空間の中に畳のスペースも設けられ、ほっと安らぐ空間になっている。玄関周りにはテーブルが置かれ、季節の花が生けられている。訪問時にも入居者がテーブルを囲み居心地よさそうに過ごされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みのものが持ち込まれ、また花を飾るなど、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。